



F

P

瓦

版

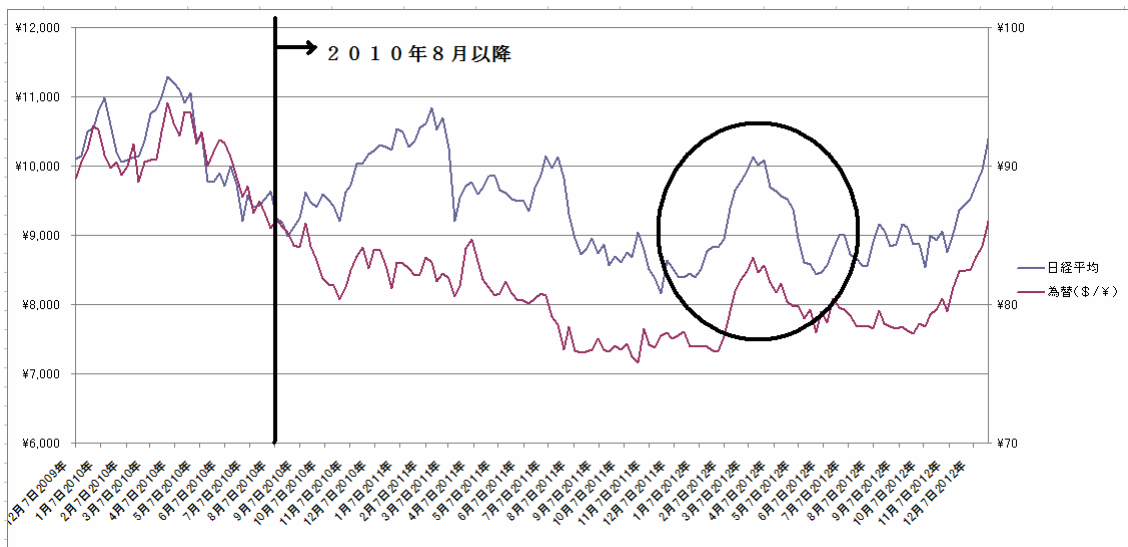
大きな経済の見方とそのポイント

新年おめでとうございます。今年もFP 瓦版をよろしくお願いいたします。

今月は、昨今の大きな経済の見方とポイントです。「風が吹けば、桶屋が儲かる」とは日本のことわざですが、経済も「原因と結果」がわかると、「市場がどちらに向かうか？」が見えてきます。

例えば下図は、2009年12月から2012年12月の日経平均とドル/円の為替レートをグラフ化したものです。既にお気づきの方も多いと思いますが、2010年8月頃を境に、日経平均と為替の形 = 動き方が似ていることがわかります。

【日経平均と為替レート(ドル/円)】



では、なぜ、日経平均と為替レートが似たような動きをしているのでしょうか？

細かい原因を調べるといろいろな要素が考えられますが、大きな流れで考えると、「人間の心理状態が日経平均や為替に影響している」ということが読み解けます。

ここで皆様に思い出して欲しいのですが、昨年冒頭から春先に掛けて、大きな世界的に経済不安がありました。それは「ギリシャの破綻とユーロの崩壊」です。

昨年の冒頭、ギリシャが3月の国債に対する利払い並びに償還ができなくなり、国家破綻するのではないか？という憶測が市場に蔓延していました。結局、ドイツ・フランスを中心とするユーロ参加国やユーロ圏の中央銀行などが中心となり、ギリシャを救済したこと

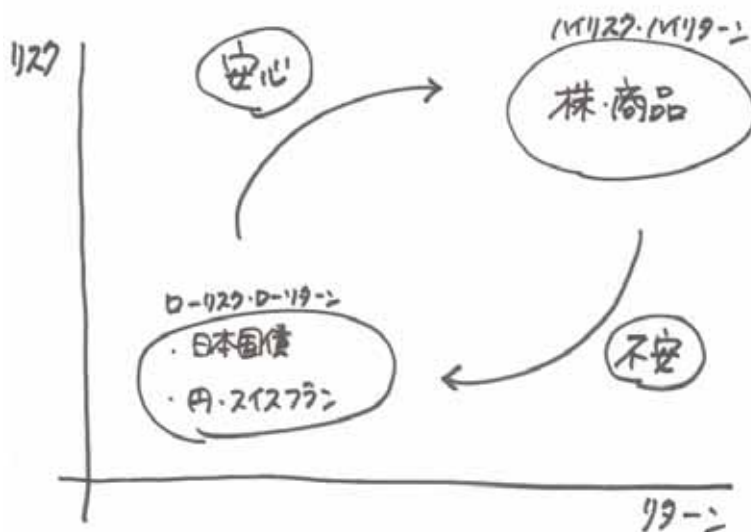
により国家破綻を回避しました。

破綻を回避した後の日経平均・為替の動きが、グラフ中 で囲んだ部分です。

ギリシャが破綻を免れたことにより、世界的な経済危機が一時的に去り、そのことに株式市場・為替市場参加者が「安心」をし、日本国債や円からお金が離れ（国債の金利低下）株式市場にお金流れ込んだので、為替は円安に、株価上昇という流れを生みました。

このように、大きく最近の経済を見ると「市場が安心すると、株や商品にお金流れ、市場が不安になると、日本国債やドイツ国債や円やスイスフランなどにお金流れる」（流れる = 買われる）という流れがポイントになっていることがわかります。

【経済の大きな流れ】矢印の方向にお金流れる



昨年末からの株高・円安の流れは、11月16日の野田前首相の解散発言が引き金となり、1月3日には1ドル87円後半まで円安ドル高が進みました。昨年の1ドル79円頃から10%近くも円安に振れています。

このように起こる現象に市場の心理がどう働くか？を読み解くことができれば、大きな経済の流れが予測できます。

では今年の見通しはどのようなもののでしょうか？

個人的には、昨年より市場心理が安定することにより、一層の円安・株高が進むと思われます。

その理由 1 つ目は、自民党政権の日銀法の改正にまで及ぶ経済政策への投入が考えられます。2 つ目に、世界の政治安定化です。その原因は、「アメリカ・中国・ロシアをはじめ、主要各国のトップが入れ替わる選挙が一段落したこと」です。いみじくも、日本も民主党から自民党へ政権が移りました。

このように、大きな経済の流れはおよそ先読みすることが可能です。

それを基に、今後株式市場や為替市場、引いては不動産市場にお金流れてくるか？を見極めることができれば、それを不動産経営に役立てていくことができるでしょう。